

---

## 巻頭言

---

### 皆様のお役に立つ室内環境学会

会長 柳沢幸雄

私は、皆様のお役に立つ室内環境学会の確立を目指して、昨年会長選挙に立候補し、現在会長として任務にあっています。室内環境問題に強い関心と、知識、経験を持つ専門家の集団として室内環境学会はどのような形で、皆様のお役にたつ、すなわち社会的な責務を果たすことができるのでしょうか。

この問いに答えるために、「AならばBである」という論理的命題が正しいか、正しくないか、この命題の真偽を証明する場合を考えてみましょう。「AならばBである」という命題が正しくないことを証明するのは簡単です。AならばBでない例を一つ挙げることができれば、この命題が偽であることは明白になります。それでは真であることを証明するには、どうすればよいのでしょうか。AならばBである例を100集めることができたとき、この命題が真であることの証明は完了したのでしょうか。100集めても、1000集めても、1億個の例を集めても真であることの証明にはなりません。1億1個目がAならばBでない例であるかもしれないからです。真であることの証明は公理を出発点として、論理的操作過程を経て証明する以外に方法はありません。

自然科学が対象とする現象に公理はありませんから、論理的に厳密な意味で自然現象の真偽を証明する方法はありません。たとえば誰もがその正しさを疑わない「エネルギー保存則」も、論理的な意味で厳密にその正しさが証明されているわけではありません。しかし数千年に及ぶ人類の科学の歴史の中で、「エネルギー保存則」に背馳する例が一つも見つかっていないので、私たちは安心してエネルギーは保存すると学生に教えることができます。

このように「AならばBである」ことを否定する事は非常に簡単ですが、肯定は難しい作業であると言うことができます。それでは「AならばBである」という命題を否定することができたとき、否定作業に続いて行わなければならない課題は何でしょうか。それは「AならばXである」というXを提示することだと、私は考えます。しかし室内環境問題に限らず、このXを提示する努力を、私たち室内環境学会の会員を含めて専門家の多くが十分に行ってきたでしょうか。特に大学、研究所で研究を主たる業務とする専門家が、Xを提示する努力を十分に行ってきたでしょうか。

環境分野に限ってみても専門家によるXを提示する努力が日本では不十分だったと、私は思います。なぜ不十分だったかという点、AならばXでない例を誰かに一つ挙げられて、否定されることを怖がっていたからです。Xを提示する代わりに、専門家がAならばBでない例を探すことに血道を上げていくと、専門家自身の社会的安全性は表面上確保されるものの、その専門家の社会的存在意義はまったく無いことになります。室内環境学会の社会的存在感を増すために、会員の一人一人がXを提示する努力を重ねていくことが重要です。さあ皆さん、がんばりましょう。

「がんばりましょう」でこの原稿を終えてしまうならば、私も「AならばBである」という命題を否定しただけで、この原稿を終えることになってしまいます。皆様のお役に立つ室内環境学会の確立を目指して、立候補した会長として、具体的にXを提案しましょう。会長の就任挨拶で述べたように、専門家としての知識を標準的手法として集約し、室内環境学会標準として提案しましょう。また室内環境の改善に役立つ製品を室内環境学会として推奨していきましょう。

このような提案、推奨作業で間違いを犯す可能性があることは否定できません。われわれが全知全能でない限り、間違いを犯す可能性は常にあります。間違いをまったく犯さない方法は、何も提案しない事です。何も提案しないということは、皆様のお役にたたない室内環境学会、と言う批判を甘受しなければなりません。間違いを犯す危険性を犯しても、具体的提案をしていかなければなりません。

もちろん間違いは最小にしなければなりませんから、学会として判断に至る経過、手順を明確に規定し、公開する必要があります。このような手続法の下で、標準的手法を提案し、推奨品リストを公表する事によって、皆様のお役に立つ室内環境学会を確立し、学会の社会的存在感を高めて行くではありませんか。

## 皆様のお役に立つ 室内環境学会

会長  
柳沢幸雄

## 役に立つと言うこと

学問とはそれ自体が尊いものではない  
学べ、学べ、学んだすべての物を  
世の人のために尽くしてこそ  
価値があるのだ

内山寿一

## 役に立つ仕事

- 室内環境学会標準の設定
- 学会誌、広報活動
- 事業活動
- 学会、社会連携

## 役に立つための組織

業務	役職	担当者	
学会標準策定	副会長	平野耕一郎	
会誌広報活動	副会長	中井里史	
事業活動	副会長	市川勇	
学会・社会連携	副会長	松村年郎	
事務局	局長	小野雅司	
	会計	角野政弥	
	監査	松木秀明	
	書記	阿部恵子	
総括	会長	柳沢幸雄	

## 学会標準策定

- 2003年12月まで
  - 測定法評価
  - 適用ケース別測定手順書作成

## 会誌広報活動

- 2003年12月まで
  - 学会誌2報発行
  - ニュースレター3回発行
  - ホームページ6回更新

### 事業活動

- 2003年12月まで
  - 講演会・シンポジウムの開催
  - 分科会活動の推進
  - 支部活動の推進
  - 学会活性化のための活動の推進

### 学会・社会連携

- 2004年度中に
  - 他学会との合同総会開催
  - 講演会・シンポジウムの開催

### 事務局

- 2003年12月まで
  - 会員数を580名以上に増加を目指す
  - 運営委員選出規則制定
  - 会費について検討
  - 事務局の国立環境研からの移転

### 役に立つための組織

業務	役職	担当者	サポーター兼目付役
学会標準策定	副会長	平野耕一郎	瀬戸、雨谷
会誌広報活動	副会長	中井里史	新田、榎本
事業活動	副会長	市川勇	伊藤、牧野
学会・社会連携	副会長	松村年郎	村松、池田
事務局	局長	小野雅司	岡本
	会計	角野政弥	
	監査	松木秀明	
	書記	阿部恵子	
総括	会長	柳沢幸雄	熊谷

### 提案

- 室内環境学会のロゴマークを作ろう